

事務事業マネジメントシート(令和 4年度実績と令和 5年度計画)

令和 6年 1月 4日 更新

事務事業名		ことば教育推進事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	栗木 清智
	施策	9	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	小林 信一
	施策の柱	31	学力の向上			所属班	学務指導班	(内線)	5322
予算科目		会計一般	款 10	項 1	目 3	事業連番	11582	根拠法令	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 4年度で終了 <input type="checkbox"/> 4年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 24 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	ことば教育を学校教育に導入する。児童生徒を取り巻く言語環境は、近年マスメディア等の影響でよい環境とは言い難い。学習指導要領では、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る事が強調されている。そのため、本事業を通して児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育むことを目標とする。
【業務の流れ】	学校生活の様々な場面で「ことば」を意識した教育活動を実践していく。
【主な予算費目】	報償費、需用費
【意見や要望】	児童生徒によるあいさつや言葉遣いに対する市民の関心は高い。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 4年度実績(4年度に行った主な活動)(DO)	児童生徒の思考力、判断力、表現力等の成果発表の場として、ことのは作品コンクールを実施した。	5年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
		児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育くむための専門家(元アナウンサー)による授業及びその成果発表の場として、ことのは作品コンクールを実施する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 校	予算の主な増減の理由
ア: ことば教育を実施している学校数	→ 12	ことのはコンクール審査員増に伴う報償費の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位) 人	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
小中学校児童生徒	→ 7,170	ア: 児童生徒数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) %	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
児童生徒の言語活動の向上に資する。	→ 100	ア: 言語環境の整った児童生徒の割合
*③成果指標設定の理由と5年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
言語環境が整うことで、児童が居心地のよい学校となることから、言語環境の整った児童の割合とした。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	2年度実績(決算)	3年度実績(決算)	4年度目標(当初予算)	4年度実績(決算)	5年度目標(当初予算)	6年度予定	7年度見込	8年度見込
① 活動指標	ア: 校	校	10	12	12	12	12	12	12	12
② 対象指標	ア: 人	人	6,944	7,173	7,170	7,317	7,429	7,450	7,500	7,550
③ 成果指標	ア: %	%	100	100	100	100	100	100	100	100
投資	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	268	286	846	303	852	852	852
入費	(A) 事業費計	千円	268	286	846	303	852	852	852	852
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特例	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件費	人	6	3	6	2	6	6	6	6
量	正規職員従事人数	人	6	3	6	2	6	6	6	6
	延べ業務時間	時間	410	90	410	64	410	410	410	410
	(B)人件費計	千円	1,616	351	1,633	243	1,633	1,633	1,633	1,633
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,884	637	2,479	546	2,485	2,485	2,485	2,485

事務事業名	ことば教育推進事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	-----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は4年度の事後評価、ただし複数年度事業は4年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 4年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	② 5年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 「ことば教育」に関する活動の場が、教育課程にも位置づけされており、言語環境の整備が可能である。
有効性評価	③ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 良質な学習環境が提供されている。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似の事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の経費であり削減は難しい。
	⑥ 人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 学校教育活動の一環として実施している事業であり、「ことば教育」は重要であり削減できない。教育課程の一部であり、外部委託はできない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 児童・生徒全体に関わるものであり、一部の受益者には偏っていない。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 市内の小・中学校に対しての事業であり、その取り組みについては教師主導でおこなう専門性が必要である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

新学習指導要領では学校教育活動全体にわたって「言語活動」の充実があげられている。「ことば教育」の実践により、教師、児童生徒、保護者が「ことば」をより一層意識した教育に取り組むことができている。豊かな心や表現力の育成に欠かせないものであり、学力の確実な定着にもつながっている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない) 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持		○																		
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																					